瓦屋根(反り有り)
小屋梁
梁天端を小屋梁下端より35下げる
RS1
t200
RS1の厚みを薄くする方向で検討中
RB1
300×400
軒蛇腹
アンカー深さ
13d=210以上のこと
何本かのアンカーがスラブの配筋に当たる模様
台直しの際は臥梁のかぶりが少ないため
壊さないように特に慎重に願います。
←階高詰め
現場返り墨
1FL+4155
横目地に重なるため
上に30程度移動する
2B1は2F壁の端部まで移動
まぐさ
2FL
仕上げ厚15
2S1
t200
2B2
300×450
天端位置変更
2S1と合わせる
2B1
300×450
KeyStone
現場返り墨
1FL+2600
天井内ダクト配管
1F便所CH=2350
1、2階の内壁のずれ
115
レンガの上の隙間の処理
レンガの角を欠かないように
型枠施工・解体時には注意のこと。
隙間は発泡ウレタンなど
あまり堅くない材料で埋める。
モルタルや木で埋める事は不可
内部
現場返り墨
1FL+500
1FL
FB1梁端部
便所
315-320
木床
FB2
反対側までの内法
6090
既存土
基礎石
山砂詰め
礎石
野地板W160 t=__
本実？
垂木H70
登梁H245
瓦屋根(反り有り)
多少のじゃんかが
見受けられるため
アンカー施工時に状況を
注意し、
何かあれば構造監理者に
問い合わせの事
桁下には部分的に
じゃんかが見受け
られる
空隙
小割下地
樋カバー
鉄骨心
RC臥梁
臥梁は実質350×250程度の模様
←現設計アンカー下段高さ
RC臥梁の鉄筋に当たる
(上段とも)
臥梁の成715
KeyStone
既存木梁
既存根太を上下で
構造用合板でサンド
GW敷き込み
階高3165
レンガ壁厚365?
レンガ厚480
実測によるRC及び
アンカーの納まり検討図
（構造打合せ反映図）
S=1/20　20050914修正その２
将来計画準備室　君塚